事	業名	947	703	市内遺跡発掘調査事業費	担	当課		į.	教育委員会事務局 文化財課	内線 2355	
	会言		1	一般会計	_	政策	大 第 5 「ゆた		「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款		9	社会教育費	総合			4	文化		
算	項		4	一般会計	計画	基本抗	色策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	目		7	社会教育費	Ш	施策		1	文化財など保存・継承		
	根拠記	一画		実施計画 中期財政計画							
DEN.	実施計画事業		ŧ	市内遺跡発掘調査事業							
ī	市長公約										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097	人	
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	埋蔵文化財を保護し次代に伝える				
概要	概 事業の 実施手法 (手段) 開発事業により影響を受ける埋蔵文化財を記録保存する。保存活用の必要な遺跡の内容を確認する。					

2 事業の推移・結果(Do)

石橋廃寺跡試掘調査、杉ヶ平遺跡試掘調査、松倉城跡測量調査、図面・遺物整理及び報告書作成

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	埋蔵文化財対応	- 1/+ *h	件	目標値	15	15		15
	動指	埋 戚又16期 对北	11 9X	1+	実績値	15	26	-	
	標	算出根拠等	埋蔵文化財発掘の届出、通知数		達成率(%)	100	173	-	
	成果	現地調査・指導	性 数 r	件	目標値	3	3		3
	未 指	死起副且 11等	TX	"	実績値	1	3	-	
	標				達成率(%)	33	100	-	
					目標値				
成果					実績値			-	
果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
囬					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	

			(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含	む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	4,808	4,120	3,000
コス		受益	者負担(使用料・	負担金等)				
F	源内	チの他特定財源(国・県支出金・起信等)				2,400	2,000	1,500
面					2,408	2,120	1,500	
	コス	\ I~	受益者1件当た	小(円)	(A/B)	52	44	33
	指相	漂	受益者	一般市民	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績を	評価								
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い			総合計画に位置づけら	れており、遺跡の保存、活用	などのため	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		は跡などの保存や啓発活動な	どを行って	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			おり、古代遺跡などに対する市民のニーズは高い。			
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		埋蔵文化財は市全体の財産であり、その活用や啓発をする で歴史的の理解を深めることは地方公共団体で事業実施で 必要がある。		******	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないた	δ \	B (1)	一部見直しが必要	である	Α				
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		2.3.000			
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性			B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	各種開発の対応を行った。松倉城跡の測量成果を得た。			
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	B (i) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	測量調査や掘削などの る。	の委託を行い効率化・省力化に努めてし より、歴史的価値を評価でき、市民への 資料となった。 が歴史や伝統文化を守り次代に伝える ・継承の達成に効果があった。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直した 要である		ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった			埋蔵文化財の調査により、歴史的価値を評価でき、市民		市民への周	
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか_		B (1) ある程度効果があった		っった	В	全版 クロボリン (1987)			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	(i) あまり効果が見られなかった						
		合計		7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点	
(Г,	分析・評価で明らかになった。 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 試掘調査などの効率的な実施 かに何が 指定遺跡の調査の精度を上げ					す 。				
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	埋蔵文化財に対する周知を行	テい、開発	事業など	ごに対し試掘調査や	、個人住宅の場合は発掘	調査を行	ō.			

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

委託業務などで効率的な事業実施を目指す。

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	開発に	対応するため、事業の継続	売が必要	要である。国指定文化財指	定に向	け、調査の精度を上げる必	多要があ	ō š .	

	_	12.1 4.2			72.	20 <u>— 1</u> 2 242.	
二次評価							
画課・総務課・財政課評価)	IB /	U -+	. 7 N TH	110+ 7			
	·県に	対して補助金の復活を求め) 包必多	: がめる。			

事	第名 84 番枝	710	- 郷土資料·図書購入事業費	担	当課		ē	教育委員会事務局 文化財課	内線 2977
	会計		一般	en.	総		5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
予	予 款 9 教育費 算 項 4 社会教育費		合	分野	野	4	文化		
算			社会教育費	計画	基本施策		1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7	文化財費		施贫	策	1	文化財などの保存・継承	
	根拠計画								
PIN	実施計画事業	ŧ	歴史資料購入事業						
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	郷土に関わる歴史資料の流失、散逸を防ぐとともに、市民の郷土学習に	役立てる。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	郷土に関わる歴史資料を購入する。			

2 事業の推移・結果(Do)

・郷土に関わる文人	·画人の作品の購入
・郷土の歴史に関わ	る古文書等の購入
・伝統工芸品、民俗	資料の購入

						I	1		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	資料購入件数		件	目標値	15	15		15
	動指	具种牌八计数		17	実績値	65	60	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	433	400	ı	
	成日	流失、散逸を防い	\+:'/+ 米h	件	目標値	15	15		15
	果指	加大、放选を防じ	, 1/2 IT 9X	IT	実績値	65	60	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	433	400	ı	
					目標値				
成					実績値			-	
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			1	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
		歳出 (千円)	(A)	10,662	6,944	7,000
コス		·者負担(使用料·負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国・県支出金・起債等)				
面		財源		10,662	6,944	7,000
	コスト	受益者1件当たり(円)	(A/B)	114	75	76
	指標	受益者 一般市民	(B)	93.312	92.861	92.097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点		評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い				
市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	郷土の歴史遺産を大切は根強い。	にし、地域に愛着を深めるというニーズ
	は減少していないか	C (0)	ニーズが低い				
		A (2)	事業主体を見直す	余地はない			
市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	郷土に関わる歴史資料 化は必要。	の流失、散逸を防ぐため、資料の公有
		C (0)	市が実施する必要	性が低い			
		A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	郷土に関する貴重な資	料の公有化が進められている。
		C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない			
の効率性	・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В		争入札等に適さないが、金額の交渉が 対応している。
	減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			飛騨高山まちの博物館	等で新蔵品展をはじめ、展示・活用して
政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	В		-タベース化し、HPで検索できるように
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった		し、閲覧しやすくした。	
	合計	7	/ 10	\rightarrow	•	100点換算	70 点
	市民二一ズ の確認 市が実施する 必要性 活動力 対性 教行方率 も の効性	市民ニーズ の確認 ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうが、社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか ・ 市が実施する ・ 市が事業主体であることは妥当か・ 国・県・民間の活動と競合していないか ・ 国等・民間の活動と競合していないか・ ・ 成果指標などの目標値の達成状況はどうか・ ・ 表示限のコストで事業を実施できているか・ ・ 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか・ ・ と関・・ との ・ との ・ との 本書 は は 適正か ・ 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか・ ・ 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか・ ・ 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか ・ 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうが、社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないが	市民ニーズ の確認 ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう か ・ 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか	市民ニーズ の確認 ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は滅少していないか	市民ニーズ の確認 ・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう か 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は減少していないか 日 1 ある程度のニーズがある 日 2 事業主体を見直す余地はない 日 2 事業主体を見直す余地はない 日 3 中 3 中 3 中 3 中 3 中 3 中 3 中 3 中 3 中 3	市民ニーズ

分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)

量 高山の歴史文化の資料充実のため、歴史的資源の散逸を防ぎ、市民に活用していただく必要がある。

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

平成23年度事業評価において、より多くの方々に貴重な資料を見ていただけるような資料の活用方法を検討する必要があるとの指摘を行っており、引き続きまちの博 物館での展示も含め取り組んでいく必要がある。

縮小

廃止の検討

H25完了予定

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

飛騨高山まちの博物館収蔵品展等を行い、広く市民に公開、周知する。

購入した書籍などをデータベース化してHPで検索できるようにし、閲覧しやすくし、資料閲覧などを広報等での紹介。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

継続的に貴重な歴史資料の購入を進める。 収蔵品展など市民への公開を継続的にすすめる。 学校などへ、資料の活用などの情報提供を行う。

維持·改善

O 維持・改善 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・飛騨高山まちの博物館での展示も含め、購入した資料の更なる有効活用に取り組んでいく必要がある。

事	業名	473i)	文化財保護事業補助金	担	!当課	教育委員会事務局 文化財課			内線 2356	
	会計 1 一般会計		総	政策	É	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして				
予	款		9	教育費	合	分里	7	4	文化		
算	算 項 4		4	社会教育費	計画	基本的	拖策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	目 7		7	文化財費	ı	施領	꼐	1	文化財などの保存・継承		
	根拠計画	Ī									
913	実施計画事業 文化財保護事業		文化財保護事業								
ī	市長公約										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民、文化財保存団体	対象者数	92,097	人					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	地域で文化財を保存活用する活動を支援し、文化財の保存を図る								
概要	事業の 実施手法 (手段)	文化財保護団体に対する補助。 史跡や伝承芸能の保存にあたっている団体の運営・活動経費にあてる。	化財保護団体に対する補助。 跡や伝承芸能の保存にあたっている団体の運営・活動経費にあてるため必要な補助を行う。							

·伝承芸能保存団体(11団体) ·国指定管理(8団体)

2 事業の推移・結果(Do)

・地区保存会(11団体)

		H24の実績	・屋台管理費(1団体)・高山祭屋台保存技術後継者育成		·市指定文化則 ·史跡保存会	オ管理(2団体) 補助(12団体)		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	補助件数		件	目標値	46	47	49
	動指	補助計数		1+	実績値	46	47	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果一		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出(千円)	(A)	5,980	6,007	7,379
=	財	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
H	. 赤	その	他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				180
Ī	訳	一般財源				5,980	6,007	7,199
I		~ 1.	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	64	65	80
	排	標 受益者 市民			(B)	93.312	92.861	92.097

3	<u>分析・評価(C</u>		·評価	77 100	L 111				
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	はどう A	ム(2) ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いる	ニーズ B	ある程度のニーズ	がある	Α	文化財保存団体におけ の要望は強い。	る活動を対象としているため	、団体から
		は減少していないか	С	この ニーズが低い					
			А	事業主体を見直す	余地はない		+"	tradit white with 7 to a	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか), В	3 (1) 一部見直しが必要	である	Α		かに対して補助しているもので することにより保存会の保存	
			С	こ (0) 市が実施する必要	性が低い		1110 2.00		
			А	A (2) 目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	どうか B	B(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	Α		hの整備など、活動団体の積 多くの活動団体に利用されて	
			С	と (0) 目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できてい。 ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2) 事業効率化・コスト約	宿滅等の改善の余地はない		コスト抑制が直接市民	サービスにつながる事業では	ないが、国
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	В	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	情報提供を行っている。	用するなどして市の負担を軽 。また、保存団体が積極的に	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		よう事務処理などを支持	援している。	
		・事業の実施が市の政策、施策の推進しがあったか	に効果 A	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか	Ь	B (1) ある程度効果があ	った	Α	総合計画にも位置づけ も重要である。	られており、文化財保護や継	承において
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能か	能した C	あまり効果が見られ	れなかった				
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
(۲,	合計 分析・評価で 明らかになった課題 AJ評価にするために何が 必要なのかを記入)			F団体の積極的な文化財	保護活動を支援していける	よう検討	する。		
	(参考) H24事業評価	結果 制度の有効性を高めるよう内	窓等を見直っ	す必要がある。					

H24事業評価結果 (二次評価)

制度の有効性を高めるよう内容等を見直す必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

国等の補助金の活用により団体数や活動の拡充を図れるよう、情報提供や事務処理などの支援を行っている。

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	保存団	団体と意見交換会を行い、忄	青報提信	共を行ったり、連携を図る。			

		₩210° 4X 音		1AA.A	481.11.	96TO 1881	1120)6 1 7 72
					·	·	·
二次評価							
(企画課・総務課・財政課評価)	. #II ##	のか用ナや試すて必要がも	. z				

・制度の効果を検証する必要がある。

事	業名 番枝	733	国指定文化財保存修理事業補助金	担	!当課		教育委員会事務局 文化財課 23:	-	
	会計	1	一般会計	総	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款	9	教育費	合	分野	4	文化		
算			社会教育費	計画	基本施策	〔 1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	目 7		文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承		
	根拠計画								
913	実施計画事	業	文化財保護事業						
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民、文化財保存団体	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	文化財を保存活用することを支援し、文化財の保存を図る			
概要	事業の 実施手法 (手段)	修理希望のあった国指定文化財について助成を行う。			

2 事業の推移・結果(Do)

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	1± 01 // */		件	目標値		2		1
	動指	補助件数		1+	実績値		2	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)		100	ı	
	成果	修理件数÷修理	圣 切此物	千円	目標値		2		1
	未 指	沙土口奴。沙土	:中主 IT 奴	111	実績値		2	-	
	標	算出根拠等	修理件数÷修理希望件数		達成率(%)		100	-	
					目標値				
成果					実績値			-	
果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
囬					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	

			(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含む	t)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
				歳出 (千円)	(A)	0	2,245	11,800	
コス		受益者負担(使用料·負担金等)							
F	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
面							2,245	11,800	
	コスト	,	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	24	128	
	指標		受益者	一般市民	(B)	93,312	92,861	92,097	

0 AV 577 (0) 1 WT 40 (5 5 0 5 de 4 577

	分析·評価(C 評価項目	heck) ※平成24年度の実績を評価 評価観点		評価		評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い		p. 1.m.	21.001.21			
1	市民ニーズの確認	*・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	国指定文化財の修理、 があり、市民のニーズに	特に建造物については多くの は急増している。	修理希望	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	国指定文化財は市民の 一体となって保存に取り)財産であり、地方公共団体、 リ組む必要がある。	所有者が	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	修理により文化財の建物の保存が良好に保たれた。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽 減する余地はないか	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	効率的な修理を行うよう指導を行っている。ただし、修理の方 など一定の修理方針を定める必要がある。			
		- 受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった				より、歴史的価値を維持でき		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能した	B (1)	ある程度効果があ	ots	В	統文化を守り次代に伝	なった。総合計画の(1)郷土の える①文化財などの保存・継		
		・中長公約の美現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		効果があった。			
	合計			/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点	
	分析・評価で	分析・評価で								

明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)

修理の具体的な方針や基準を定める必要がある。

維持·改善

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

修理の実施を行う際、設計士を入れ関係者と協議を行い、文化財審議会での協議を行い、適正な修理が行われるよう対応した。

次年度の (担当課評価) 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定

修理に対する文化財所有者のニーズは大きく、何年も待つような状態であるため、今後も事業を継続する必要がある。

拡大

(企画課・総務課・財政課評価)

縮小

廃止の検討

H25完了予定

・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。

事	事業名		740	市指定文化財保存修理事業補助金	担	当課			教育委員会事務局 文化財課	内線 2354	
	会計	**		一般会計	4//	政策	ž	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款			総合分野		ř	4	文化			
算	算 項		4	一般会計	計画	基本的	策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	目		7	社会教育費		施策	ž	1	文化財など保存・継承		
	根拠計	画		実施計画・中期財政計画							
95	実施計画	事業	ŧ	指定文化財保存修理事業							
ī	市長公約										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民	対象者数	92,097	人				
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	市指定文化財を保護し次代に伝える							
概要	事業の 実施手法 (手段)	修理希望のあった市指定文化財について助成を行う。							

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	白山神社覆殿 角正 田上家住宅					
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活動	修理数		件	目標値	2	3	1
	指	沙土奴		П	実績値	3	3	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	150	100	-	
	成果	修理件数÷修理	- 修钿 - 蔡切 - 此 - 物	%	目標値	20	20	1
	果 指	廖柱丁奴,廖右	印主厅奴	,0	実績値	3	6	-
	標	算出根拠等	修理件数÷修理希望件数		達成率(%)	15	30	-
					目標値			
成					実績値			-
果		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)		·	-
					目標値			·
					実績値		·	-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

			(人件費を	上除き繰越・補正を含む	t))	決算額	決算額	予算額
				歳出 (千円)	(A)	11,277	9,999	4,000
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			11,277	9,999	4,000
	コス			(A/B)	121	108	43	
	指相	票	受益者	一般市民	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	市指定文化財の修理、特に建造物については多くの修理希があり、市民のニーズは急増している。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	市指定文化財は市民の 一体となって保存に取り	D財産であり、地方公共団体、i り組む必要がある。	所有者が
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				_
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	修理により文化財の建物の保存が良好に保たれた。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	効率的な修理を行うよう指導を行っている。ただし、修理の7 など一定の修理方針を定める必要がある。		理の方法
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			市指定文化財の修繕により、歴史的価値を維持でき、市民へ		市民へ保
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか_	B (1)	ある程度効果があ	った	В	行意能向上への啓発となった。総合計画の(1)郷土の歴史や 統文化を守り次代に伝える①文化財などの保存・継承の達成		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		効果があった。		
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)								

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

各文化財の状態を正確に把握し、中長期的な計画を作成する必要がある。 優先順位の設定について検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

修理の実施を行う際、設計士を入れ関係者と協議を行い、文化財審議会での協議を行い、適正な修理が行われるよう対応した。

廃止の検討 維持·改善 拡大 縮小 H25完了予定

縮小

廃止の検討

H25完了予定

修理に対する文化財所有者のニーズは大きく、何年も待つような状態であるため、今後も事業を継続する必要がある。

拡大

(企画課・総務課・財政課評価)

・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。

維持·改善

事	事業名 事業名		文化財関係事務費	担			教育委員会事務局 文化財課	内線 2356	
	会計	1	一般	4/1	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予算	款	9	教育費	総合計	分野	4	文化		
算	項	4	社会教育費	計画	基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	目 7		文化財費	1	施策	1	文化財などの保存・継承		
	根拠計画								
5	実施計画事	業							
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	文化財保護行政円滑な執行		
概要	事業の 実施手法 (手段)	文化財関係の協議会等への参加、負担金支出		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績

		指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
活				目標値			
動指			1	実績値			-
標	算出根拠等			達成率(%)			-
活動			0	目標値			
動指				実績値			-
標	算出根拠等		達成率(%)			-	
成				目標値			
果 成 指			件	実績値			-
成 果 一世	算出根拠等			達成率(%)			-
八	講座受講者数		人	目標値			
果指				実績値			-
標	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等	出根拠等					-
			補	足事項			

			(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含む	ti)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	862	805	1,127
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	・県支出金・起債等)				
面	訳	一般	財源			862	805	1,127
	تر =	∼ 1⁻	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	9	9	12
	指	標	受益者	全市民	(B)	93,312	92,861	92,097

	分析・評価(Che		F1III		₹π / π 1	# ##	=	57年中の		の理力等)			
	評価項目	評価観点			評価	至学	評価	高平1回/J名	字の説明(評価	107理田寺)			
		・事業実施に対する市民ニーズの修	向はどう	A (2)	ニーズが高い		評価						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に係	半いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	対象	内部事務のため評価に	適さない				
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い		外						
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない	評						
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していな		B (1)	一部見直しが必要	である	価 対 象	内部事務のため評価に	適さない				
				C (0)	市が実施する必要	性が低い	外						
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている	評						
③ 活動内容の ・目的とする成果があが ・成果指標などの目標値		・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況	兄はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	価 対 象	内部事務のため評価に	適さない				
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し	外						
④ 執行方法 ・委託化など事業の効率化施手法に改善の余地はない事の効率性・国等の補助金の活用など		・最小限のコストで事業を実施できて		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない	評						
		施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政		B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	価 対 象	内部事務のため評価に	適さない				
減する余地はないか ・受益者負担は適正か				C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必	外						
		・事業の実施が市の政策、施策の指 があったか	推進に効果	A (2)	効果があった		評						
(5)	政策面に おける効果		画及び主要計画等の目標達成を図る		画及び主要計画等の目標達成を図る		ある程度効果があ	ot	価対	内部事務のため評価に	適さない		
		・市長公約の実現を図る上で有効に か	機能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった	象 外						
	合計			/ -				100点換算	評価	対象外	点		
	以評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価額 (二次評価)	Handler Action)											
課題等に対する 今年度の対応状況													
		〇 維持・改善	i		拡大	縮小		廃止の検討	t	H25完了	予定		
	次年度の 実施方針 (担当課評価) 文化財保護行政の円滑な執行。												
		〇 維持・改善			拡大	縮小		廃止の検討	t	H25完了	予定		
	二次評価					1		l .		1			

事	94 番枝	750	文化財啓発事業費	担	!当課		教育委員会事務局 文化財課	内線 2355		
	会計	1	一般	40	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	l		
予	款	9	教育費	総合	分野	4	文化			
算	Andre		社会教育費	計 基本施策 1 郷土			郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える			
	目	7	文化財費	Ш	施策	2	親しみ理解する機会の充実			
	根拠計画									
-	実施計画事:	業	文化財標柱整備事業							
	市長公約		9伝統文化を守り、次代へ継承します 国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財 人と人とのつながりを大切にする語り部の育成に取			〈紹介	トするため、パンフレット、説明看板等の)整備や、		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	文化財を良好に維持し、文化的価値を幅広く広めることで文化財に対す	る意識を高める。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	文化財の活用・啓発のため、指定文化財等の位置、内容等を記載した。 外国語の案内看板等を整備する。	説明看板、石柱等を作	製設置する。	

2 事業の推移・結果(Do)

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	_
	ı	ı	扫标名	申证				HZO	
	活動	設置数		箇所	目標値	45	37		41
	指	IX III XX		E171	実績値	40	35	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	95	-	
	成日	公開数		箇所	目標値	45	37		27
	果指	公刑数		固刀	実績値	40	35	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	95	-	
					目標値				
成					実績値			-	
成果		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
			•		目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含さ	t)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	4,960	3,839	4,100
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		財源			4,960	3,839	4,100
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	53	41	45
	指標	受益者	一般市民	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績を記	評価					
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	A (2)	ニーズが高い				
1	市民ニーズの確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	= ーズ B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	市民の郷土学習等に活 評の声が聞かれる。	用され、文化財巡視員や見学者より好
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い				
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない			化財の説明看板は高山市文化財保護条
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	ある。	おり、市が中心となって設置する必要が
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		支所地域の文化財は地	型域振典としても里安。
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	設置計画を立て、計画的	的に設置を行っている。
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担 減する余地はないか	旦を軽 B (1)			В	支所別に設置している。 単価を抑えている。	ものを一括契約することで一本当たりの
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に があったか	7 (2)	効果があった				山市の歴史文化の保存・活用に寄与す
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能	D (1)	ある程度効果があ	not:	Α	ることができる 周遊ルート上の看板に ザインの取り組みを行っ	外国語標記を追加し、ユニバーサルデ
		・中長公利の美現を図る工で有効に機能か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		リインの取り組みを打ち	5/5.
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点
([分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が 文化財標柱設置に係るコストの	D縮減					
	(参考) H24事業評価額 (二次評価)		3看板や石柱等	を設置を行う。				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

ー本当たりの単価を抑えるため、支所別に契約しているものを一括で入札を行う。 説明看板等の多言語化を進める。

0	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	6年度で地域振興予算での に高山市全体の説明看板				
	-	1		1	

	5	稚符"収音	孤大	イイ	廃止の模酌	H25元「予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当)	課評価に同じ)				

3	業名	947	753	世界文化遺産登録推進事業	‡E	当課		教育委員会事務局 文化財課	内線	
7				产 57人已选注至外汇是于未	14		3/1725(27/33/5 7/10/73)			
	会言	+	1	一般	AIN	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款		9	教育費	総合	分野	4	文化		
算	算 項		4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	伝える	
	目	7		文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承		
	根拠詞	一画								
-	実施計画	事第	ŧ	世界文化遺産登録推進・歴史ボランティア育成支援	事業					
	市長公約			9伝統文化を守り、次代へ継承します 国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財 人と人とのつながりを大切にする語り部の育成に取り			〈紹介	トするため、パンフレット、説明看板等の)整備や、	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097 人
目的		高山の町並等の世界遺産への登録 高山祭の屋台行事のユネスコ無形文化遺産への登録 歴史ボランティアの育成		
概要	事業の 実施手法 (手段)	世界文化遺産登録に向けての啓発活動等 ユネスコ無形文化遺産の啓発活動等 ボランティア講座の開設		

2 事業の推移・結果(Do) H24の実績

高山市歴史講座の中で町並み保存(耐震)、飛騨国絵図をテーマとした講座等を開催し、啓発に努めた。 提案地区内で各種会合の際に、啓発活動を積極的に実施した

	NV DIF 1										
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25			
	活	啓発件数			目標値	100	100		100		
	動指	合光针数		ш	実績値	100	100	-			
	標	算出根拠等		•	達成率(%)	100	100	-			
	活	ボランティア講座	小問 事		目標値	8	8		8		
	動指	ハノンティア語母	と の	ш	実績値	12	17	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	150	213	ı			
	成果指標	##(左形,無形	シ文化遺産の登録件数	件	目標値	2.0	2.0		2.0		
成		匠外(有形-無形	// 大心退圧の豆鉢什女	17	実績値	0.0	0.0	-			
果面		算出根拠等			達成率(%)	0	0	-			
血	成	講座受講者数	· 5数		目標値	150.0	150.0		150.0		
	果指	神庄文神 日 奴		人	実績値	561.0	598.0	-			
	標	算出根拠等			達成率(%)	374	399	ı			
					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			-			
					目標値						
					実績値			-			
		算出根拠等			達成率(%)			ı			
	地中東西										

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	146	100	500
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		財源			146	100	500
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2	1	5
	指標	受益者	全市民	(B)	93,312	92,861	92,097

	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い		B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙゙ある	В		とにより、高山市の歴史文化の係 きる。観光分野や文化財保護の記 こっている		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い						
				A (2)	事業主体を見直す	「余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないた	þγ	B (1)	一部見直しが必要	そである	Α	文化庁とのやり取りや、 で行わなければ困難で	、資料づくり、市民への啓発等、である。	ちが主 体	
				C (0)	市が実施する必要	厚性が低い					
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		世界無形文化遺産の名	登録への事業は啓発と市民の意	総向上	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	である。 伝統構法による耐震化	等の高山歴史講座を開催、地域		
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		的保存の啓発にホラン	体付の谷光にハフノナイト講座を行つに。		
・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 数を与せ、 またでは、 変形化など事業の効率化・省力化に向け実											
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	様々な機会で啓発・講座	が震化等の高山歴史講座を開催、地域の文化 にボランティア講座を行った。 8発・講座の開設を行っており、コストは低い。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である							
		・事業の実施が市の政策、施策の推進 があったか	に効果	A (2)	② 効果があった			世界遺産を啓発することにより、高山市の歴史文化の保存			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	うった	В	承に寄与することができ			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	(6	/ 10	\rightarrow		100点換算	60	点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 A」評価にするそめに何が 必要なのかを記入) 世界遺産登録を目指すために、文化庁との連携を密にし、課題解決に臨みたい。 ポランティアガイドの育成は継続して行い、幅広い人々に啓発する必要がある。										
	(参考) H24事業評価	世界文化遺産登録に向けて、 無形文化遺産の登録に向けて ならにボランティアの音成に向	て、文化庁	すとの連							

(二次評価)

さらにボランティアの育成に向け、専門の講座の開設を行う。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 世界文化遺産登録に向けて、啓発活動等。無形文化遺産の登録に向けて、文化庁との連携を密にする。 まちの博物館でボランティアガイドを開始、市全体への足がかりとする。 ボランティアの育成に向け、講座を開設を行うことで、次年度のボランティアガイドの増員につながる。

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の						

実施方針

世界文化遺産登録に向けて、啓発活動等を積極的に行う。 無形文化遺産の登録に向けて、文化庁との連携を密にする。 ボランティアガイドの増員があり、その方々のスキルアップのため、専門の講座の開設を行う。

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価						

(企画課・総務課・財政課評価) (担当課評価に同じ)

Г	事業名	947	754	歷史的風致維持向上事業	+5	当課		教育委員会事務局 文化財課	内線			
	尹未石	番枝		正文的高文章行问工学来	71	二本	2020年初间 人口对际					
	会	Ħ	1	一般	611	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして				
7		7	9	教育費	総合	分野	4	文化				
第	ij	į	4	社会教育費	計画	基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える				
	E		7	文化財費	1	施策	1	文化財などの保存・継承				
	根拠	十画		歷史的風致維持向上計画								
	実施計画事業			歷史的建造物群耐震化等対策事業·城下町歷史的風致維持向上事業								
	市長公約			9伝統文化を守り、次代へ継承します 国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財 人と人とのつながりを大切にする語り部の育成に取り			(紹介	ーーーー トするため、パンフレット、説明看板等の	整備や、			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	郷土の有形無形の伝統文化を次代に伝える体制を整える			
概要	事業の 実施手法 (手段)	祭礼復興事業として、地域の祭りなどを昔ながらの衣装などに整備する また、ふるさと伝承記録として、伝承芸能等を記録として残す。	•		

4の実績	祭礼復興事業として、地域の祭りなどを昔ながらの衣装などに整備した。 また、ふるさと伝承記録として、国府地域の金蔵獅子を記録として残した。
------	---

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	祭礼衣装の整備	5.14- %h		目標値	1	3		0
	動指	宗礼仪表の登事	111-300	ш	実績値	1	3	-	
	標	算出根拠等		•	達成率(%)	100	100	-	
	活動	仁承世 能司经 <i>K</i>	录作成回数		目標値	1	1		1
	動指	以外公形心球1F灰凹数		回	実績値	1	1	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	ı	
	成	祭礼の数		件	目標値	1.0	3.0		0.0
成	成果指	示礼の数		117	実績値	3.0	3.0	-	
果面	標	算出根拠等			達成率(%)	300	100	-	
血	成	5141 + LZ+	云承芸能等の数		目標値	1.0	1.0		2.0
	果指	記録した伝承芸能等の数		,	実績値	2.0	2.0	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	200	200	-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
補足事項									

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む	(ני	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出(千円)	(A)	0	0	4,000
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			0	0	4,000
	ت =	~ I ·	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	0	43
	指	標	受益者	全市民	(B)	93,312	92,861	92,097

	分析・評価(Che 評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズの確認	*	В «	ある程度のニーズ	゚ゕ゙ある	В	伝統文化の継承や文化! まっている。	財保護の面からも必要で市民要望が		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			事業主体を見直す	「余地はない						
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	B (1) 一部見直しが必要である		Α	歴史的・文化的価値の評 は困難である。	平価や整備における調査などは、民間		
			C (0)	市が実施する必要	厚性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	伝承芸能等を保存・継承 つながる。	することが、郷土に対する深い理解に		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない			庁の補助を活用し、高山市の財政負担を軽減することに		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	に向け実 数負担を軽 B(I) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている が事化が図られていないよめも何が見る」が必		高山市の財政負担を軽減することに					
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてし 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか	力果 A (2)	効果があった			祭礼衣装等を整備した、	各神社で盛大に伝統的な神事が取り		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能し	B (1)	ある程度効果があ	うった	В	行われた。。 以前に行った、祭礼衣装の復活により、昨年度高山祭 舞いが50年ぶりに復活した。			
		・中長公利の美現を図る上で有効に機能しか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		殊いか50年かりに接近	U/E。		
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 A.評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) 美しいふるさと認証制度については、制度設計の具体化を進める必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

祭礼復興事業として、地域の祭りなどを昔ながらの衣装などに整備する。 また、ふるさと伝承記録として、伝承芸能等を記録として残す。

0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	[興事業はH24年度で終了 と伝承記録は継続して、伝	等を記録として残す。			

	0	稚持• 収書	孤大	稲小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 企画課·総務課·財政課評価)	(担当記	袰評価に同じ)				

Г	事業名		755	伝統的建造物群保存地区保存事業費	+6	当課	教育委員会事務局 文化財課					
				位机时是退物件体计地位体计争未真	111	· = 本		2354				
Г		会記	+	1	一般会計	4//5	政策		5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
	事業 9 社会教育費 合計 項 4 一般会計 目 7 社会教育費		4	4	文化							
9			4	一般会計			施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える			
				施贫	策	1	文化財など保存・継承					
		根拠詞	十画		実施計画·中期財政計画							
	実施計画事業 歴史的町並保存事業											
	市長公約 9		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ◎美しいふるさとの伝統文化を守り次代に継承します。 ・国内外から訪れる多の観光客に名所旧跡、文化財等を分かりやすく紹介するためパンフレット、説明版等の整備や、人 ▶人のつかがりまえ切にする話り部の育成に取り組みます。								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民·観光客	対象者数	3,861,747	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	伝建地区内における伝建物の保存整備、及び非伝建物の景観復元し、	伝統的な景観を維持	する。	
概要	事業の 実施手法 (手段)	伝建地区内における伝建物の修理及び、非伝建物の修景事業に対する	補助等。		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	修理76

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	修理修景数		件	目標値	9	6		10
	動 修理修景数 指			11-	実績値	10	7	-	
	標	算出根拠等	修理件数	•	達成率(%)	111	117	-	
	成	日知姓廿六 1.本	**	件	目標値	9	6		10
	果指	景観維持向上事業		1+	実績値	10	7	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	111	117	-	
					目標値				
成					実績値			-	
成果		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等		•	達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等		•	達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				44	日本语				

	(人件質を除さ繰越・補止を含む)	决 昇額	决 昇額		
	歳出(千円) (A)	40,420	40,487	40,500	
コス	財 受益者負担(使用料・負担金等)				
۲	- スポープ (国・県支出金・起債等) (国・県支出金・起債等)	20,000	20,487	20,500	
	コスト	歳出 (千円) (A) 財 受益者負担(使用料・負担金等) 源 その他妹や財政(司・周・カリー会・お標準)	歳出 (千円) (A) 40,420 財 受益者負担(使用料・負担金等) (源 その他妹や財政(国・県本出会・お侍堂) 20,000	機出 (千円) (A) 40,420 40,487 対 受益者負担(使用料・負担金等) 源 その他特定財項(国,根本出会、お信等) 20,000 20,487	

20,420 20,000 20,000 受益者1件当たり(円) (A/B) 受益者 観光客 3,861,747 3,861,747 3,861,747

3	分析·評価(C				1 m					
_	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	伝建地区内の建造物修理の希望が常にあり、高いニーズ している。			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
				事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	高山市のまちづくりの」)保存を条例で定めている。 上で重要な地域であり、地方公 保存に取り組む必要がある	共団体、	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		所有者が一体となって保存に取り組む必要がある。 			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	保存計画、防災計画や、様々な伝建地区の調査報告などを元 に保存修理、修景を行っている。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	補助事業の一件あたりの修理費のチェックなどを行っている。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	総合計画にも位置づけられ、高山のまちづくりのもっとも重要な 地域であり、修理等は効果がある。			
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能しか		C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
	合計		9	9 / 10 ->			100点換算	90	点	
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)					県費補助金の復活。					

(参考) H24事業評価結果

伝統的建築物に対応した耐震工法について早息に検討する必要がある。 保存計画に基づき今後も継続して実施するとともに、建築物の使用形態や屋外広告物なども含め、地区全体のあり方について地元住民等とともに考える必要がある。

4 今後の方向性(Action)

今年度の対応状況

コスト縮減の視点から、修理家屋等それぞれの設計書の点検や見直しなどを行った。 文化財審議会での協議で決めた修理・修景方針に基づき事業実施する。

	0	維持・改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	保存計	↑画に基づき、今後も継続す	€施する	o.			

二次評価	·伝統的建
i課·総務課·財政課評価)	·保存計画

0

維持·改善

拡大

建築物に対応した耐震構法マニュアルを早急に整備する必要がある。 ■に基づき今後も継続して実施するとともに、建築物の使用形態や屋外広告物なども含め、地区全体のあり方について地元住民等とともに考える必要があ

縮小

廃止の検討

H25完了予定

Г	事業名 94757		57	伝統的建造物群保存地区防災対策事業費	+6	当課	教育委員会事務局 文化財課					
				位 机的是追彻价保行地位的贝对京学未复	115	· = 本		2354				
Г	Т	会計	+	1	一般会計	4//5	政策		5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
	3	款 9 社会教育費 総 分野		野	4	文化						
3	項 4 一般会計 目 7 社会教育費			4	一般会計	計画	基本抗	施策 1		郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	云える	
			ш	施贫	策	1	文化財など保存・継承					
Г	1	根拠計	画		実施計画·中期財政計画							
Г	実施計画事業 歴史的町並防災対策事業											
	市長公約 9		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ◎美しいふるさとの伝統文化を守り次代に継承します。 ・国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財等を分かりやすく紹介するためパンフレット、説明版等の整備や、人 レ人のつながはませ切にする話り部の音成に取り組みます。								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民·観光客	対象者数	3,861,747	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	伝建地区を災害に強い町並とするために、伝建地区の土蔵の修理や防 の向上をさせる。	災設備の整備を継続	して実施し、防火能	カ
概要	事業の 実施手法 (手段)	伝建地区内の土蔵等修理事業に対する補助、防災設備の整備等。			

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	消火栓設置、グループ火災自火報1地区、土蔵修理6件

		指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
活	仁建地区上井架		<i>1</i> #-	目標値	6	5		4
	伝廷地 色工	修理美胞件数	14-	実績値	7	6	-	
標	算出根拠等			達成率(%)	117	120	-	
成			6 目標値 6		5		4	
果指	伝建地区防炎 问	人们工計数		実績値	7	6	-	
標	算出根拠等			達成率(%)	117	120	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等	拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	動指標 成果指	動指標成果指標 第出根拠等 第出根拠等 第出根拠等 第出根拠等 第出根拠等 第出根拠等	動 指標 第出根拠等	類	動情標 年 算出根拠等 達成率(%) 伝建地区防災向上件数 件 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 第出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 算出根拠等 連成率(%) 日標値 実績値	特別	伝建地区土蔵等修理実施件数	特別

補足事項

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	40,000	39,958	40,500
コス		者負担(使用料	·負担金等)				
۲	源 その他特定財源(国・県支出金・起債等)				20,000	19,979	20,500
面	一般財源				20,000	19,979	20,000
	-1/VI:	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	10	10	10
	指標	受益者	観光客	(B)	3,861,747	3,861,747	3,861,747

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

3	<u>分析・評価(C</u> 評価項目	heck) ※平成24年度の実績を評価 評価観点		57 /m -	H- 24-	-m /m	27.77		
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			国際党の文化財である	ララ カラス ション	地区の保
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	存や防災対策事業は地区住民のみならず、一般市民、観光客からのニーズも多い。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
				事業主体を見直す	余地はない		伝建地区内の建造物の	D保存を条例で定めている。	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		を定めている。 上で重要な地域であり、国も地	域の独自
			C (0)	C (0) 市が実施する必要性が低い			性を認めている。		
			A (2)	目的とする成果が十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		В	保存計画、防災計画や に保存修理、修景を行	、様々な伝建地区の調査報告 っている。	などを元
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	対応機器の見直しなど げる取り組みを行った。	により、児童火災報知設備の: 。	コストを下
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	ote	Α	総合計画にも位置づけ 地域であり、修理等は3	られ、高山のまちづくりのもっ。 効果がある。	とも重要な
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) 地元との入念な打合せを行いながら事業を推進する必要がある				進する必要がある。					

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

防災計画に基づいて今後も継続して実施していく。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

防災計画に基づき事業実施した。

維持·改善

保存計画、防災計画に基づき、今後も継続実施する。

 ○
 維持・改善拡大
 組小
 廃止の検討

 二次評価
 -次評価
 -次評価
 -

拡大

縮小

廃止の検討

H25完了予定

H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) (担当課評

(担当課評価に同じ)

事	業名	947 F枝	58	歷史的町並再生事業	担			教育	「委員会文化財課文化財グループ -	内線 2354
	会計		1	一般会計	総	政策	神	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
予	款		9	教育費	合	分野	Ť	4	文化	
算	項		4	社会教育費	計画	基本抗	拖策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝	える
	目		7	文化財費	11	施贫	神	1	文化財などの保存・継承	
	根拠計	画								
実施計画事業 歴史的町並再生無電柱化事業										
ī	市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民および観光客	対象者数	3,861,747 人			
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	平成16年度に実施した「全国都市再生モデル調査」の報告をもとに、下二之町大新町伝建地区の環境整備7 、景観の向上を目指します。					
概要	事業の 実施手法 (手段)	道路美装化、無電柱化を実施。					

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績 昨年度に引き続き、大新町地区の電線地中化及び道路美装化に係る整備を進めた。

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	地区内の整備路	7.44.の写動		目標値	785	882	97	79
	動指	地区内の整備的	「利水・〇ノ 以上 内止	m	実績値	688	819	-	
	標	算出根拠等		•	達成率(%)	88	93	-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
成					実績値			-	
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
血					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				44	日本语				

・当事業は全工区の整備を完了しないと成果が現れにくい事業である。ただし、完了路線においては観光客が増えつつあり、事業の成果と 考えている。

		事業費 H23 (人件費を除き繰越・補正を含む) 決算額				H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	232,247	152,225	251,800
コス		益者負担(使用料	•負担金等)		829	572	0
۲	源 内)他特定財源(国	·県支出金·起債等)		111,248	66,173	109,540
面		段財源			120,170	85,480	142,260
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	60	39	65
	指標	受益者	観光客	(B)	3,861,747	3,861,747	3,861,747

維持·改善

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

拡大

縮小

廃止の検討

0

H25完了予定

	評価項目	副	平価観点			評価基	基準	評価	評価内容	字の説明(評価	の理由等)	
		. 古类字体/- N+73	まR - プの傾向は	+ 1/2	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化な	市民ニーズの傾向は ど時の経過に伴いこ		B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	伝建地区内を整備対象としているため、歴史的景観保護に対る地元住民からの要望は強い。			
	V AIL III.	は減少していないか		-	C (0)	ニーズが低い						
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	市が事業主体である・国・県・民間の活動		,	B (1)	一部見直しが必要	である	А	市以外が実施主体となまた景観に関わることな		あり、道路や側溝整備、	
	2211	E X MINOS	Came do Co Go a		C (0)	市が実施する必要	性が低い		over well and a contract of			
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В				
	177712				C (0)	目的とする成果があるが必要である	がってないため大幅な見直し	1	であるが、部分的に景観の向上が図られつつある。			
		・最小限のコストで事			A (2)		宿滅等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性				B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	継続して委託発注し事業効率の向上と、国の補助金の活用を 図りたい。			
					C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
			事業の実施が市の政策、施策の推進に効果		A (2)	効果があった						
⑤	政策面における効果			を図る	B (1)	ある程度効果があ	った	А	全体計画に基づき順次 景観が改善され、回遊		おり、完了路線においてに ある。	
		・市長公約の実現を か	図る上で有効に機能	化した ー	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった					
	<u>'</u>	合計		7	7 / 10 →				100点換算		70 点	
						<u>, </u>						
	分析・評価で明らかになった。 A J評価にするたる A J評価にするたる 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価) 今後の方向性 課題等に対す	課題 かに何が は 法 と 整備を通じ E(Action)	て地域の魅力を向」	上させ、市	可民の伝	統文化に対する意	が、早期事業の完成に努力を表現に発力を表現して、 はままま (単純) おいまま (単純) おいまま (単純) おいまま (単純) おいまま (単純) おいまま (単純) でいまる (単純) (単純) (単純) (単純) (単純) (単純) (単純) (単純)				「不可欠である。	
	明らかになった。 A.J評価にするたら 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価)	課題 かに何が は 語果 整備を通じ E(Action)	で地域の魅力を向。	上させ、市	可民の伝	:統文化に対する意 機関と定例打合せを:	鎌向上や観光に付加価値 (進めている。		収組みを行う必要がある 。	,		
	明らかになった。 AJ評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価) 今後の方向性 課題等に対す 今年度の対応	課題 かに何が は 語果 整備を通じ E(Action)	て地域の魅力を向」	上させ、市	可民の伝	統文化に対する意	鎌向上や観光に付加価値			,	バ不可欠である。 H25完了予定	
	明らかになった。 A.J評価にするため 必要なのかを配 (参考) H24事業評価 (二次評価) 今後の方向性 課題等に対す	課題 かに何が 当事業は全 を備を通じ E(Action) る 次年度に向	で地域の魅力を向。	上させ、市	可民の伝	:統文化に対する意 機関と定例打合せを:	鎌向上や観光に付加価値 (進めている。		収組みを行う必要がある 。	,		

耳	業名	947	759	歴史的遺産等保存活用事業	‡E	当課		教育委員会事務局 文化財課	内線	
7	* 1	番枝		亚大印建在 4米17/17/17/17	,_		24122227223724			
	会	+	1	一般会計	4//5	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款		9	社会教育費	総合	分野	4	文化		
算	項	į	4	一般会計	計画	基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	伝える	
	目		7	社会教育費 施策 1 文化財など保存・継承						
	根拠詞	計画								
-	実施計画	画事為	ŧ	歴史街道等活用事業						
伝統文化を守り、次代へ継承します ⑥美しいふるさとの伝統文化を守り次代に継承します。 ・国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財等を分かりやす〈紹介するためパンフレット、説明版等の整備や、ノ と人のつながりを大切にする語り部の育成に取り組みます。						備や、人				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民	対象者数	92,097	人
Ē		歴史街道の整備、周知を行い郷土の歴史や文化を次代に伝える。			
相号	事業の 実施手法 (手段) 1.歴史街道周辺の文化的景観地等保全計画策定 2.地元農村景観保存組織立ち上げ支援 3.歴史街道ルート復元整備 4.歴史街道およびその周辺に説明版設置 5.歴史街道沿いの休憩、拠点施設の活用及び整備 6.天然記念物の現況調査、保護対策				

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	歴史街道(越中街道)調査委託

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	测导 数准体配		箇所	目標値	4	5		1
	動指	測量·整備箇所		固川	実績値	4	2	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	40	-	
	成	整備街道数		箇所	目標値	2	3		1
	果指	歪脯闰足奴		国 771	実績値	2	2	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	67	-	
					目標値				
成					実績値			-	
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
田					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	

事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む) H23 決算額 H25 予算額 歳出(千円) 2,000 財 受益者負担(使用料·負担金等) をの他特別 ・一般財源 その他特定財源(国・県支出金・起債等) 3,867 3,811 2,000 コスト 受益者1件当たり(円) (A/B) 受益者 一般市民 93,312 92,861 92,097

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	B (t)	ある程度のニース	がある	В	地域から歴史文化を大	切にしたいという意向がある	5.	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	そである	Α	歴史街道は市民の財産であり、地域振興としての活用が見込れるため、地方公共団体、所有者が一体となって保存に取り む必要がある。			
			C (0)	市が実施する必要	厚性が低い		C25+20.00.00			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	ъ B (1)	目的とする成果が	がある程度あがっている	В	旧街道の整備などによ いる。	り、多くの人が歩いて楽しめ	る道となって	
				目的とする成果があ が必要である	りとする成果があがってないため大幅な見直し 3要である					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け9		(2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	B 40	事業効率化・コスト組	減等がある程度図られている	В	最低限の面積等のみの 整備工事などの縮減に)実施を行うことなどで、測量 努めている。	上の委託料や	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効があったか	果 A (2)	効果があった			総合計画の埋もれている貴重な文化財の調査・再発見に			
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	D (1)	ある程度効果があ	らった	Α	がる。 またそれを元に歴史街道巡りなどの事業を行い、歴史・文化			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	f= C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		活用したまちづくりにも	つなげている。		
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 A.J評価にするために何が 必要なのかを記入)		活用方法につ	いても検討していく						
	(参考) H24事業評価 (二次評価)	精極的に活用を図る必要がある。								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

修理の実施を行う際、設計士を入れ関係者と協議を行い、文化財審議会での協議を行い、適正な修理が行われるよう対応した。

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	実施計	十画、中期財政計画に基づ	き今後も	も実施する。			

	Ŭ	#10 WE		may.	480.1.	Ser of Seri	 1120,617,2
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	- 車 業	効果を検証する必要がある	<u> </u>				
	7.	<i>M</i>	,,				

垂	業名	947	760	高山祭屋台保存修理事業費	拒	当課		4	教育委員会事務局 文化財課	内線	
,		番枝	1		Į					2356	
	会	+	1	一般会計	総	政策	Alf.	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予	款		9	教育費	命	分野	ř	4	文化		
算	data:		4	社会教育費	基本加		策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝え		
	目		7	文化財費	Ш	施策 1 文化財などの保存・継承					
	根拠詞	計画									
3	実施計画	画事業	ŧ	屋台整備事業							
ī	市長公統	約									

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	屋台組、一般市民	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	江戸時代から続く日本有数の祭の一つとして数えられる高山祭の宝とし	て、後世に残していく	0	
概要	事業の 実施手法 (手段)	国、県、受益者負担により緊急に修理が必要なものから、順次修理を行	う。		

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	·金鳳台、大八台、恵比須台 修理 ·石橋台蔵 修理						
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活動	屋台及び屋台蔵	の核理供数	件	目標値	3	4		6
	期 指	座口及び座口刷	(の)修理计数	±	実績値	4	4	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	133	100	-	
	成果	祭の回数			目標値	2	2		2
	指	水の四数		1	実績値	2	2	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
					目標値				
成					実績値			-	
果工		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含	む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
		歳出 (千円)	(A)	37,934	37,901	40,000
コス		益者負担(使用料·負担金等)		3,789	3,789	4,000
۲	源って	D他特定財源(国·県支出金·起債等)		18,949	18,949	20,000
面		段財源		15,196	15,163	16,000
	コスト	受益者1件当たり(円)	(A/B)	407	408	434
	指標	受益者 市民	(B)	93.312	92.861	92.097

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績をi	評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	Α はどう Α	(2) ニーズが高い							
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	=−ズ B	ある程度のニーズ	がある	Α	祭りの象徴ともいえる屋 からの要望は強い。	置台整備を対象としているため、屋台組			
		は減少していないか	С	(0) ニーズが低い							
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない						
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	В	(1) 一部見直しが必要	である	Α	市が屋台の管理者とな	っているため、妥当である。			
			С	(0) 市が実施する必要	性が低い						
			А	② 目的とする成果が	十分にあがっている						
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか B	(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	屋台組からの要望等により、順次実施しており、十分な成果が 得られている。 伝統構法や技術の継承などにも寄与している。				
			С	(0) 目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し		四郎 神温 (* 又門 の) 紀子				
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない							
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{担を軽} B	(1) 事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	歴史的な文化財でもある。 ある。	るため、品質の維持を行うことも重要で			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	二効果 A	② 効果があった							
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか_	Р	ある程度効果があ	っった	Α	総合計画にも位置づけ を継承していく上でも、3	られており、祭りの象徴ともいえる屋台 効果が高い。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		(0) あまり効果が見ら	れなかった						
		슴計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>ś</u>			
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	果題 りに何が 国指定重要有形民俗文化財を	そ維持するた	め、地元や文化庁との訂	- 調整を行い、計画的に事業を	宇施する	5.				
	(参考) H24事業評価額 (二次評価)	国指定重要有形民俗文化財を	そ維持するた	め、地元や文化庁との訂	国整を行い、計画的に事業を	実施する	5.				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

国指定重要有形民俗文化財を維持するため、地元や文化庁との調整を行い、計画的に事業を実施する。 技術保有者を認定し、修理を実施していくことで伝統構法や技術の継承などにも寄与している。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	国指定	宇重要有形民俗文化財を 維	持する	ため、地元や文化庁との誰	整を行	い、計画的に事業を実施っ	する。		

)	新业. (Y.E.	TAX	<u> </u>	神田 (1)	<u> </u>	かれている大力	HZOJE I PJE
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	(担当	課評価に同じ)						

事	事業名 番枝		783	市史編纂事業費	担	当課		Į.	教育委員会事務局 文化財課	内線 2356
	会言		1	一般	40	政策	É	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	2330
予	款 9 教育費				総合	分里	7	4	文化	
算	John			社会教育費	計画	基本於	拖策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	伝える
	目		7	文化財費		施領	臣	1	文化財などの保存・継承	
	根拠記	一画								
9	実施計画	事業	ŧ	市史等編纂事業						
1	市長公紀	d d								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	郷土の歴史を次代に伝える		
概要	事業の 実施手法 (手段)	高山市史編纂		

2 事業の推移・結果(Do)

・資料編として「飛騨国絵図」を発刊した。・絵図に関する講演会を開催し、市民への関心を高めた。 H24の実績

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	刊行がなされた	ま中午の業 物	巻	目標値	1	1	1
	動指	111111111111111111111111111111111111111	川丈寺の合奴	~	実績値	1	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	ı
	成	作製した冊数			目標値	300	300	300
	果指	下級したⅢ数			実績値	300	300	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	ı
				件	目標値			
成			П	実績値			ı	
果面		算出根拠等			達成率(%)			ı
Ш				人	目標値			
				^	実績値			ı
		算出根拠等			達成率(%)			ı
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			ı
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			1
			_	補	足事項			

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む	;)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	3,994	6,385	8,334
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			3,994	6,385	8,334
	=;	∼ 1-	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	43	69	90
	指	標	受益者	全市民	(B)	93,312	92,861	92,097

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	宮の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はと	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ-	В (1)	ある程度のニース	がある	В		てから年数が経過しており、合併! \市史刊行への市民要望が高まっ	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			0.		
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	長である A		歴史的な価値基準を公平な視点から検討する A め。また、資料検索や時代考証等が、市が主 進が困難なため。		
			C (0)	市が実施する必要	厚性が低い		E/ EIXE/6/20/8		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	うか B (1)	目的とする成果が	がある程度あがっている	Α		。 利用し、講座を開設したり、特別原 5く歴史や文化について周知してし	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し) くとして旧民に福丛へ正文 (人)について周		. 00
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向けま			事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない					
4	4 執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を			事業効率化・コスト組	減等がある程度図られている		ホームページで公開する 考えた。	ることで、発刊数を減らし、コストタ	(ウン
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にながあったか	効果 A (2)	A (2) 効果があった			「飛騨国絵図」を歴史的な資料として発行しただけでなく、そ テーマに沿った講座の開催や特別展の開催など、幅広く行・		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	B (1)	B (1) ある程度効果があった			た。	州惟や特別展の開惟なと、幅広く ,絵図を公開し、教育や観光振興(
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能し か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		できるよう配慮した。		
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 様々な機会をとらえて、市史等の	の情報を提供し	、より多くの受益者	が歴史や文化に触れるよう	にする必	要がある。		
	(参考) H24事業評価網	資料編として「飛騨國絵図」を発 絵図に関する講演会を選集をして、 ・ は後の間は	開催し、市民へ(

(二次評価)

引き続きホームページにも絵図を公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮する。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 ホームページにも絵図を公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮した。 テーマに沿った講座の開催や特別展の開催など、幅広く行った。 発刊計画の見直しを行う。

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定

次年度の 実施方針

(企画課・総

「建造物」を発刊予定。 絵図に関する講演会を開催し、市民への関心を高める。 ホームページにも絵図を公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮する。

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 ·総務課·財政課評価)	(担当語	果評価に同じ)				

事	業名	948 番枝	300	飛騨高山まちの博物館管理費	担	当課		į	教育委員会事務局 文化財課	内線 2977
	会計	ŀ	1	一般会計	4//5	政策	Ę	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	•
予	款		9	教育費	総合	分野	ř	4	文化	
算	項		4	社会教育費	計画	基本施	策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	伝える
	目		8	文化財施設費	Ш	施策	2	2	親しみ理解する機会の充実	
	根拠計	画		高山市教育振興基本計画						
5	実施計画	事業	ŧ	文化財保存施設等管理事業、文化財保存施設等維	持補	修·改修	事業			
ī	市長公約]								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民、観光客	対象者数	92,097	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	市民や観光客が気軽に集い憩う中で、城下町高山の歴史や文化に触れ 光客に高山の歴史を感じてもらうことで高山の魅力を知ってもらい、リビ・		の醸成を図り、また	、観
概要	事業の 実施手法 (手段)	城下町高山を中心とした歴史文化について資料収集、調査研究、展示、	教育普及などの活動	をおこなう。	

2 事業の推移・結果(Do)

	・施設維持のための休館日を1日に抑えた。
H24の実績	・高山城についての解説資料とするとともに、市内の周遊性を向上させるため、高山城跡周遊マップを作成した。
	・展示解説等の見直しを順次行い、わかりやすい展示になるよう努めた。

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	開館日数	•	В	目標値	360	360	360
	動指	洲垢口奴			実績値	365	364	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	101	101	-
	活	展示見直し室数		室	目標値	3	3	3
	動指	展示見直し至数		-	実績値	3	4	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	133	-
	成日	立約李粉		人	目標値	72,000.0	72,000.0	72,000
成	果指	来館者数		^	実績値	188,130	184,315	-
成果	標	算出根拠等	360日×200人		達成率(%)	261	256	-
面	成日	研修室利用回数	,	0	目標値	120	120	120
	果指	切形至利用凹刻		ш	実績値	208	212	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	173	177	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む))	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	20,736	27,817	25,783
コス		者負担(使用料·	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面		財源			20,736	27,817	25,783
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	222	300	280
	指標	受益者	一般市民	(B)	93,312	92,861	92,097

_	分析·評価(CI 評価項目	heck) <u>※平成24年度の実績を評</u> 評価観点	, ma	評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	В	ある程度のニーズ	がある	Α	市民の来館者も多く、歴 聞かれる。	歴史・文化の拠点として期待で	する声が多く
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		++		*=!-::
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		順感から多くの資料を寄附・1 山を総合的に対象とする施設	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		Α	郷土館時代の約10倍の	O方に来館していただいてい	る。
				目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト約	宿滅等の改善の余地はない				
4	の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を 減する余地はないか	B (1)		滅等がある程度図られている	В		こいないため、資料保存・施設 式行錯誤をしている最中であ	
		・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効があったか	71 (2)	効果があった			東京国立博物館におけ	ト る円空展と連携して事業を	fat.
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能し	B (1)	ある程度効果があ	った	Α		系活動に利用されるほか、誘	
		か	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった			_	
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
(۲٫	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 かに何が 高山の魅力を面的に理解してもら				を順次見	直していくことが必要。		

H24事業評価結果 (二次評価)

入館者の動向などの分析・評価を行い、改善につなげていく必要がある。 まちめぐりの拠点としての機能を高める取組みについて検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

0

展示見直しを順次実施中。 他の事業との連携で歴史資料等の活用を考える。

維持·改善

解説シート等を企画中。 周遊拠点としての位置づけを強化するため、周遊ルートの拡大を検討する。

	維持•改善	0	拡大	縮小		廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	がわかりにくいため、案内ま う人に高山の魅力を理解し				整える。		

縮小

廃止の検討

H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・ガイドの育成等により、まちめぐりの拠点としてより多くの人が利用し、高山の魅力を理解してもらえるよう取り組む必要がある。

拡大

事	事業名		5	風土配の丘学習センター等管理費	担	当課		ě	教育委員会事務局 文化財課	内線
	会計	tX	1	一般会計		政策	ŧ	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	2356
予	款	t	9	教育費	総合	分野			文化	
算	項		4	社会教育費	計画	基本抗	も策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に	伝える
	目		8	文化施設費		施贫	華	2	親しみ理解する機会の充実	
	根拠計画	Ī								
UN	E施計画	業		文化財保存施設等管理事業、文化財保存施設等維	持補	修·改修	事業	Ę		
ī	市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	<mark>対象) </mark> 一般市民、研究者	対象者数	92,097	人
目的		か	・ に、出土品等の整理・	調査研究を行い、組	郡土
概要		手法 歴史氏役員料館の管理活用 市内遺跡の出土品の教理等			

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	風土記の丘学習センター、	国府文化財保護センター管理費

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
			担保石	丰位				
	活動	開館日数		В	目標値	248	247	251
	指	D.D.A.L 24		_	実績値	248	247	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	1
	活	自主事業数		事業	目標値	6	6	6
	動指	日工尹未奴		尹木	実績値	6	6	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	1
	成	入館者数		人	目標値	7,200	7,200	7,200
成	果指	八貼有奴		_ ^	実績値	6,170	5,489	-
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	86	76	1
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			1
					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等		-	達成率(%)			1
					目標値			
					実績値			ı
		算出根拠等			達成率(%)		·	ı
				źd	兄車佰			

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含	(t)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	3,668	8,023	3,926
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		財源			3,668	8,023	3,926
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	39	86	43
	指標	受益者	市民	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	体験講座、景観、展示等幅広いニーズがある。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	見である	Α		調査の拠点として、また、埋蔵文化 、市が管理していくことは妥当である	
			C (0)	市が実施する必要	厚性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	施設自体が分かりにくし 知を行っている。	い場所にあるが、自主事業の開催等	で周
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を転	B (1)	事業効率化・コスト編	減等がある程度図られている	В	節電対策等実施してい	5 .	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか		効果があった			総合計画に位置づけられていること、また地域の歴史を知る上		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	らった	Α		箸を整理し、閲覧しやすいように整備	iđ
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		వ .		
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 埋蔵文化財の展示を充実し、収蔵さ りに何が 施設が分かりにくい場所にあるため					,	,	

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

事業の充実、展示の見直し等を行い、歴史遺産の活用を図る。 出土品の適正な整理保存を行う。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

夏休みに新しい体験講座を開催する。 縄文時代等の理解を深める体験講座を企画し、歴史的な文化に触れる機会を増やし、理解を深める。

0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	の充実、展示の見直し等を9 品の適正な整理保存を行う。	歴史遺産の活用を図る。			

縮小

廃止の検討

H25完了予定

	0	維持·改善	拡大
二次評価 総務課·財政課評価)			

(担当課評価に同じ)

車	事業名		340	文化財施設管理費	担	当課			教育委員会事務局 文化財課	内線
ħ	未包	番枝	1	人们对起政旨程具	(A)		执行委员公平协问 人比州际	2356		
	会記	+	1	一般会計	総	政策	ŧ	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
予	款		9	教育費	合	分野	ř	4	文化	
算	項		4	社会教育費	計画	基本抗	色策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝	こえる
	目		8	文化施設費	1	施贫	ŧ	2	親しみ理解する機会の充実	
	根拠詞	+画								
SIL.	実施計画	画事業	ŧ	文化財保存施設等管理事業、文化財保存施設等維	持補	修·改修	事業			
ī	市長公紅	约								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民	対象者数	92	2,097	人
目的		掘土の歴史に対して興味、関心を深め、文化財愛護意識を高めるととも 収蔵庫による、文化財資源等の適正な管理	に、郷土の歴史を次作	代に伝える。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	指定文化財施設の管理活用				

2 事業の推移・結果(Do)

H24の宝績	指定管理施設7施設(30.540千円)	たど

果 指 人館者数 大 実績値 128,635 20	4 H25 280 28 280 - 100 - 100,000 100,000 201,975 -
Band Band	280 – 100 – 100,000 100,00
##	100 – 100,000 100,00
標 第出根拠等 達成率(%) 100 成果指 人館者数 人類核値 128,635 20	100,000 100,00
	201,975 –
標 算出根拠等 229	202 -
目標値	
実績値	-
成果 算出根拠等 達成率(%)	-
日標値	
実績値	-
算出根拠等	-
目標値	
実績値	-
算出根拠等 達成率(%)	-
目標値	
実績値	-
算出根拠等 達成率(%)	-

|--|

			(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含	む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	42,785	43,967	46,720
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国	・県支出金・起債等)				
面		一般	- 般財源			42,785	43,967	46,720
	コス				(A/B)	459	473	507
	指			(B)	93,312	92,861	92,097	

3		*析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価 評価項目 評価機点 評価基準 評価 評価 評価 評価内容の説明(評価の理由等)										
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)				
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い								
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニース	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	アンケートを行った結果、歴史・文化の学習施設として、好評を 得ている。					
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い								
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		文化財施設を保存、活用していくには、所有者である市が主体となっていく必要がある。					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α						
			C (0)	市が実施する必要	性が低い							
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている							
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	資料収集、展示等を通して、郷土の歴史に触れる場の提供 きている。					
				(i) 目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である								
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない							
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を車	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	指定管理に委託してい 経費縮減として、節電対					
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である								
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった								
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	地域の貴重な財産である文化遺産の保存、活用に寄与する重 要な事業である。					
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら;	れなかった							
		合計	7	7 / 10			100点換算	70 点				
(ГД	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 はに何が 保存していくだけでなく、活用につい	ても検討か	《必要。								

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

事業の充実、展示の見直し等文化財施設の活用の充実を図る。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

事業の充実、パンフレットの見直し、作成、展示の見直し等文化財施設としての活用の充実を図る。

拡大

次年度の
実施方針
(担当課評価)

特別展を開催、それに併せた展示やパンフレットの見直し等を行う。

維持·改善

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 企画課·総務課·財政課評価)	・ランニ	-ングコストの低減を図りつ	つ、展 [;]	示の見直し等、文化財施設	の活用	充実を図る必要がある。		

縮小

廃止の検討

H25完了予定

*	事業名 94845		345	飛騨高山まちの博物館特別展開催事業費	±F	当課		d	教育委員会事務局 文化財課	内線	
手				水岬岡山よりの特物館行別政院唯学未真	71	二二杯		9	双月安县云争协问 人心知味	2977	
会計		1	一般会計	総	政策	All Valle	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして			
予	款 9 教育費		合計	分野		4	文化				
算	ij				計画	基本的	策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える		
	E		8	文化財施設費	1	施第	策 2 親しみ理解する機会の充実				
	根拠詞	計画		高山市教育振興基本計画							
9	実施計画事業 歴史文化理解推進事業・郷土先人等										
1	市長公約										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一般市民、観光客	対象者数	92,097	人						
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	市民や観光客が気軽に集い憩う中で、城下町高山の歴史や文化に触れることにより、郷土愛の醸成を 光客に高山の歴史を感じてもらうことで高山の魅力を知ってもらい、リピーターを増やす。									
概要	事業の 実施手法 (手段)	城下町高山を中心とした歴史文化について、一つのテーマについて深く をおこなう。	掘り下げた展示及び	構演会などの関連行	事						

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	・特別展を4回開催。内1回は他団体との共催で実施。
F12400天根	・関連事業として講演会のほか、クイズラリーを行い、子供にも楽しめる展示とした。

		指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
活	実施回数		0	目標値	4	4	4
動指	天旭山致		Ш	実績値	4	4	-
標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
成	会期中来館者数	,	人	目標値	40,000	40,000	40,000
果指	云州十木贴日奴			実績値	140,822	138,059	-
標	算出根拠等	10,000人×4回		達成率(%)	352	345	-
			人	目標値			
成				実績値			-
成 果 面	算出根拠等			達成率(%)			-
田				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
		·		目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)		·	-

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
		歳出 (千円)	(A)	1,604	1,190	2,150
コス		益者負担(使用料·負担金等)				
۲	源 その)他特定財源(国·県支出金·起債等)				
面		殳財源		1,604	1,190	2,150
	コスト	受益者1件当たり(円)	(A/B)	17	13	23
	指標	受益者 一般市民	(B)	93.312	92.861	92.097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

3	分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価										
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い							
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	市民や各種団体から特別展を開催してほしいという声が寄せれており、特別展開催時は市民の来館者数も多い。				
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い							
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		M=H-1+H-1++1+	> ナナル本巻 しょく中やナフェ しょ しけ			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	他団体とも協力しながら市主催事業として実施することにより 市の課題を踏まえた展示ができるとともに、文化財に対する意 譲向上につながっている。				
			C (0)	市が実施する必要	性が低い						
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		歴史講座や子ども対象のクイズラリーなどの関連イベントを実施することにより、幅広い年齢層の人の来館につながっている。				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α					
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し						
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)			В	パネル作成等を極力自前でおこなうことにより、経費削減につ ながっている。				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった		,	特別展は郷土の歴史・文化を深く理解する機会であり、地域に				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	В	埋もれている貴重な文化遺産や歴史ある地域資源の再発見! つながっている。				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら;	れなかった		上一之町周辺の誘客効果が表れている。				
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点			
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)										

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

他団体の協力も仰ぎ、特別展を充実させる。 購入資料等の収蔵品展を行い。市民に対して公開する。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

(企画課・総

特別展関連行事を行い、関心を持って見ていただけるよう努めている。 小学校への出張展示を行い、教育機関への展開を行っている。 木工連、伝産展等地域や各団体と連携した特別展等を計画している。

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
(担当課評価)	·新蔵	本の協力も仰ぎ、特別展を 品展等を通じて、収蔵資料 イベントを充実させ、多くの	の公開	に努める。	る展示と	する。		

縮小

廃止の検討

H25完了予定

拡大

二次評価 総務課·財政課評価)	(担当課評価に同じ)		

維持·改善

0